

科目名	ウィメンズヘルス看護学演習Ⅳ Seminar on women's health nursing Ⅳ
授業形態	演習
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時限等	春ABC 月曜3,4限
単位数	3単位
担当教員名	岡山 久代 Hisayo Okayama 川野亜津子 Atsuko Kawano 金澤 悠喜 Yuki Kanazawa
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	岡山 久代 4B棟 509 okayama@md.tsukuba.ac.jp オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること
授業の到達目標 (学習成果)	Evidence-based practice の意味が理解できる。 助産ケアにおけるEvidence の現状を理解できる。 Evidence-based のステップを用いて助産ケアを導き出すことができる。 助産ケアについてシステムティックレビューをすることができる。
他の授業科目との関連	
履修条件	なし
授業概要	科学的根拠に基づいたケアを提供するために、周産期および女性の生涯を通じての助産実践について、Evidence-baseで思考し、研究していく過程について、ウィメンズヘルス看護学・助産学分野の研究を例に、講義、討議、および演習を通して学習する。
キーワード	エビデンスに基づくケア Evidence-based practice 助産学 Maternity 周産期ケア Perinatal Care 女性の健康 Women's Health
授業計画	文献クリティークを基本に行う。必要な事前準備をして講義に臨むこと。なお、グループディスカッションの時間を設ける。 1 (4/15 3限) (なぜEvidence-based practice が求められるのか?) (岡山) 2 (4/15 4限) (あらためてEvidence-based practiceとは何かを考える) (岡山) 3 (4/22 3限) (私たちの知識・思い込み vs Evidence-based practice) (岡山) 4 (4/22 4限) (助産ケアにおけるEvidence-based practiceの実状) (岡山) 5 (5/9 3限) (Evidence-based practice “つくる”“つたえる”“つかう”を理解する) (岡山) 6 (5/9 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つかう”ための5つのステップ) (岡山) 7 (5/13 3限) (PECOを用いて助産ケアに関する問題を定式化してみる(1)) (川野) 8 (5/13 4限) (PECOを用いて助産ケアに関する問題を定式化してみる(2)) (川野) 9 (5/20 3限) (PECOを用いて助産ケアに関する問題を定式化してみる(3)) (川野) 10 (5/20 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からRCTを学ぶ(1)) (川野) 11 (5/27 3限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からRCTを学ぶ(2)) (川野) 12 (5/27 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からRCTを学ぶ(3)) (川野) 13 (6/3 3限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からコホート研究を学ぶ(1)) (川野) 14 (6/3 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からコホート研究を学ぶ(2)) (川野) 15 (6/10 3限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究:文献からコホート研究を学ぶ(3)) (川野)

16 (6/10 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究: 文献からシステマティックレビューを学ぶ(1))(岡山)
17 (6/17 3限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究: 文献からシステマティックレビューを学ぶ(2))(岡山)
18 (6/17 4限) (Evidence-based practice Evidence を“つくる”研究: 文献からシステマティックレビューを学ぶ(3))(岡山)
19 (6/24 3限) (助産ケアのEvidence を自分たちで確認する: システマティックレビュー体験する(1))(金澤)
20 (6/24 4限) (助産ケアのEvidence を自分たちで確認する: システマティックレビュー体験する(2))(金澤)
21 (7/8 3限) (助産ケアのEvidence を自分たちで確認する: システマティックレビュー体験する(3))(金澤)
22 (7/8 4限) (あらためて助産ケアについての研究をクリティクスする(1))(金澤)
23 (7/19 3限) (あらためて助産ケアについての研究をクリティークする(2))(金澤)
24 (7/19 4限) (あらためて助産ケアについての研究をクリティークする(3))(金澤)
25 (7/22 3限) (一度確立したEvidence は永久か? 永久でないとするとそれはなぜか?(1))(岡山)
26 (7/22 4限) (一度確立したEvidence は永久か? 永久でないとするとそれはなぜか?(2))(岡山)
27 (7/26 3限) (一度確立したEvidence は永久か? 永久でないとするとそれはなぜか?(3))(岡山)
28 (7/26 4限) 助産ケアについて今後必要な研究を考える(1)(岡山)
29 (8/5 3限) 助産ケアについて今後必要な研究を考える(2)(岡山)
30 (8/5 4限) 助産ケアについて今後必要な研究を考える(3)(川野)

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義ごとに課題を提示することがあるので、事前に確認すること
成績評価方法	<p>&lt;評価方法と配分役割&gt; 授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p>&lt;評価基準&gt; 1. 適切な問題を設定できる。 2. 設定した問題の背景を説明できる。 3. 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。 4. その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げる事ができる。 5. 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べる事ができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1~5を自身で達成できる。 A 上記1~5をほぼ自身で達成できる。 B 上記1~5を教員の指導を受けながら達成できる。 C 上記1~5を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p>
教材・参考文献・配布資料等	取り上げる文献については、事前に連絡をする。研究方法の資料等は各自で必要に応じて準備すること。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	